

|                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <h1 data-bbox="587 253 775 349">道程</h1> | <p data-bbox="943 203 1310 237">西東京市立ひばりが丘中学校</p> <p data-bbox="1195 250 1310 284">第3学年</p> <p data-bbox="956 300 1070 333">第28号</p> <p data-bbox="943 347 1281 380">令和7年10月29日発行</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

本日、三者面談が終了したばかりですが、昨日、来月の三者面談のお知らせを配布しました。次回の面談までには、期末考査があり、高校見学や外部の模試、検定などで忙しい日々が続きますが、体調に気を付けて乗り越えていきましょう。そして面談で出た課題を改善できるように頑張ってください。

今回はB組の合唱祭の作文を紹介します。



### 「3年B組の証」

B組

中学校生活最後の合唱祭で、私達3年B組は「証」を歌った。これまでの思い出と、卒業が近づいてくる寂しさを感じながら、特別な気持ちでこの曲を取り組んだ。

練習の最初の頃は、声もそろわず、やる気の差もあってなかなかまとまらなかった。正直、どうなるんだろうと思っていた。でも、指揮者、伴奏者、パートリーダー、そして文行の二人を中心に、徐々に形になってきた。ある日の練習で、歌うのが苦手な私に友達が「歌詞の意味を感じながら歌ってみよう。」と言った。その時、初めて「証」に込められた思いが自分の心に響いた。歌うたび、3年間の思い出がよみがえった。楽しかったこと、うまくいかなかったこと、友達と笑いあった日々。どれもが今の自分を作ってくれた大切な時間だと気づいた。

本番の日。ステージの上で客席を見たとき、「これが最後の合唱祭なんだ。」と実感した。ピアノの音が鳴り響いた瞬間、仲間と自分の声が一つになっていくのを感じた。最後の一言を歌い終わったときの静けさと拍手の音は、今も耳に残っている。

「証」という曲にこめた思いは、私達の3年間のものだった。ぶつかることもあったけれど、最後にはみんなで3年B組らしく歌えた。それが3年B組の「証」だと思う。これから別々の道を進んでも、あの日の歌声と仲間の存在を忘れずに、自分らしく歩いていきたい。

### 「最高の最後の合唱祭」

### B組

最後の合唱祭は賞をもらえない悔しい結果だった。しかし、結果以上にたくさん得られた合唱祭だと思う。合唱祭後の終学活で担任の平井先生が泣いた。それにつられてクラスのみんなも今までの色々な思いがあふれでた。みんな泣きたくて泣いたわけではないと思う。「悔しい」「最優秀賞取りたかった」といった心情があって自然と出てきた涙だったと思う。しかし、これはクラス全員が本気で練習に取り組み、最優秀賞を取りたいと思っていた「証」だと思う。全力でやってきたことや時間をかけてきたこと結果が出ないのはとても悔しい。最後の部活も同様だった。顧問の先生も選手もみんな涙を流した。そのときは「あのとき〇〇していればよかったのに」という後悔が残った。しかし、今回の合唱祭は悔いはない最高の合唱祭だったと思う。B組は最初、まとまりもなく、声も出ない、他人任せのクラスだった。しかし、練習を重ねるごとに少しずつ小さな階段をスモールステップで上り続けた。途中で大きな壁にぶつかって止まっても、再び上り始めた。前だけを向いて練習した。その結果、クラスの絆が深まった、団結力が高まったと思う。まだ、B組の階段を上っていく姿は終わっていないと思う。これから受験という大きなものが待っている。つらいことのほうが多いと思う。しかし、今のB組なら支え合えると思う。そして、スポーツ大会で優勝し、嬉し泣きをして、卒業式のときに「このクラスでよかった」と思えるようにしていきたい。

だから、結果は悔しいが、それ以上に大きく成長できた最後の合唱祭になったと思う。これからもB組の突き進む姿をみんなで支え合って、もっと良いクラスにしていきたい。

### 「青春の証」

### B組

私は3年B組のみんなで「証」を歌うことができ、とても嬉しかったです。賞を取ることができなくて、悔しかったです。それ以上に良い経験をすることができました。

今年は、中学校生活最後の合唱祭だったため、どのクラスも気合いが入っているように見えました。初めて体育館で歌い、他のクラスの歌を聞いた学年リハーサルを終えた後、正直私は不安でした。でも、その翌日に行われた交流合唱で、見違えるような歌を歌うことができました。そのため、「このクラスなら良い歌を作ることができる」と確信しました。なぜなら、このままではダメだ、みんなで頑張ろうという思いが歌に表れていたからです。そうでなければ、たった一日で見違えるような歌にはなりません。交流合唱後、いろいろありつつ練習を重ね、気づいたら本番前日。その日に教室で聞いた「証」はすごくきれいで、本番が楽しみになりました。そして迎えた本番。声出しが終わった後にやった円陣は、まさにクラス一丸となった瞬間でした。前日まで揃わなかった部分が揃ったときは、歌っている途中で感動しました。

合唱祭を通して、B組のみんなの優しさに触れることができました。吹部でもなく、たいした音楽センスもない私についてきてくれて感謝しかありません。卒業式でも、「青春の証」として、全員でまた「証」を歌いたいです。

